

☆授業の内容

- ① 対照言語学と比較言語学
- ② 各レベルにおける日本語と他言語との対照
- ③ 言語類型論

対照言語学と比較言語学は全く違うものである

★比較言語学

言語の歴史研究      語彙の研究  
祖語の再建          (言語の系統研究)  
音韻対応  
厳密な方法論  
インド-ヨーロッパ語派の再建

1786年 サー・ウィリアム・ジョーンズ  
サンスクリット語・ラテン語・ギリシャ語が同一起源であることを提唱  
グリムの法則  
ヴェルナーの法則  
青年文法学派 「音規則に例外なし」  
ソシュール 「印欧語母音原始組織考」  
パウル 「言語史原理」

ソシュール      通時的研究 (比較研究) と 共時的研究 (対照研究)

記号の恣意性と同系語

語族と語派      諸語      ウラル語族  
  
アウストロネシア語族  
  
シナ・チベット語族  
  
?アルタイ語族

日本語の同系言語は見つかるか

日本語と英語の比較研究は成り立つか

- ①基礎語彙の音韻対応があるか
- ②借用語の排除
- ③英語と日本語を繋ぐものはありうるか
- ④音韻変化は体系的で自然なものであるか

比較言語学に対する異議

- ①言語地理学
- ②ピジンとクレオール
- ③言語連合

★では、対照研究とは何か

歴史抜きに言語の違いを比べていく      共時的研究

理論的側面と応用的側面

音声学  
音韻論  
形態論  
統語論  
意味論  
語用論  
文字論

それぞれのレベルで見えていく

言語教育では、語用分析が重要

## 重要な文法概念

(主に) 名詞に関するもの

定・不定

数

性

格

(主に) 動詞に関するもの

人称

対極性

時制 (テンス)

相 (アスペクト)

法 (ムード)・法制 (モダリティ)

義務的法

認識的法

態 (ヴォイス)

使役 (コーザティブ)

一致

支配

## ● (古典的) 言語類型論

屈折

		ラテン語	一つの(文法的)形態素に複数の情報をつめる
	a m ō	私は愛する	
語幹	一人称 単数 現在 直説法		

膠着

日本語	一つの意味を持った(文法的)形態素を順序よく並べる
書か-せ-られ-ませ-ん-でし-た-か	

孤立

中国語		
我 打 他。	私は彼をなぐります。	(文法的)形態素の省略
他 打 我。	彼は私をなぐります。	語 = 形態素

抱合

グリーンランド語	
kivfi-lior-nuar-umagaluar-p-unga.	語 = 文
コーヒー 入れる ~しよう よろこんで 三人称 一人称化	

## ● (現代の) 言語類型論

語順 S が O に先行する言語がほとんど

音韻

その他の文法的現象

能格性 自動詞主語と他動詞目的語を同じ扱いにすること